ピアニストを撃て（1960）

TIREZ SUR LE PIANISTE
SHOOT THE PIANO PLAYER

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス　コメディ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 88分
初公開日 1963/07/23
公開情報 東和＝新外映

【解説】

トリュフォーの長篇二作目は、敬愛するＪ・ルノワール作品の女性賛美と奔放な享楽的タッチからの影響を、彼の大好きなアメリカＢ級ノワールの形に結実させた、軽妙な愛の悲喜劇。

夜のパリの裏町を男が走る。確かに追われているようだが、電柱に頭をぶつけて転んだ所を助けてくれた、人の良さそうな立派な体格の紳士と“幸福な結婚と家庭”についてしばし話し込む。この人を喰った開幕からして、トリュフォーのゴダールとは違った、（今の言葉で言えば）脱構築の狙いが察することができる。あるカフェに逃げ込んだ男は、そこのピアノ弾きシャルリ（アズナブール）の長兄シコーだった。彼は次兄のリシャールと共に山高帽の二人組と組んでギャングを働いたが、その金を二人占めして追われていたのだ。シコーを門前払いしたシャルリには孤独の影がつきまとう。そんな彼に思いを寄せるウェイトレスのレナ（デュボワ）に店主は横恋慕していた。シャルルは末弟フィドと二人暮らし。隣室の娼婦に弟の世話を焼いてもらっている。ある夜、優しいレナにほだされて一夜を共にしたシャルリはその苦い過去を回想する。かつてエドワール・シャイヨという国際的ピアニストだった彼には女給をする愛妻がいた。が、その客だったプロモーターが彼女と関係を持ったがため自分の成功があるのを知った彼は、許しを乞う妻を拒み、そのため妻は自殺したのだ。それでただでさえ臆病な彼は一層心を閉ざして、今の境遇にあった。翌朝、山高帽の二人が彼を訪ねる。店主の密告で住所を知ったのだ。これに怒って店主を訪問した彼は取っ組み合ううちち、店主のかざしたナイフで逆に向こうを刺してしまう。レナたちに匿われたシャルリは山高帽たちにフィドが人質に取られたのを追ってスイス国境の雪山へ。そこでは既に兄たちと連中で撃ち合いが始まっており、はかなくもレナはその犠牲となる……。意欲的な技巧の空回りする所も見られるが、盛り込まれたささやかなギャグが実に楽しい。

【クレジット】

監督	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
製作	ピエール・ブラウンベルジェ	Pierre Braunberger
原作	デヴィッド・グーディス	David Goodis
脚本	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
	マルセル・ムーシー	Marcel Moussy
撮影	ラウール・クタール	Raoul Coutard
音楽	ジョルジュ・ドルリュー	Georges Delerue
出演	シャルル・アズナヴール	Charles Aznavour
	マリー・デュボワ	Marie Dubois
	ニコール・ベルジェ	Nicole Berger
	ミシェール・メルシェ	Michele Mercier
	アルベール・レミー	Albert Remy

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2025 Stingray. All Rights Reserved.